

書象

新年おめでとうございます

— 編集部一同 —

日本書道芸術協会
SHO JAPAN
〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1
日本書道芸術協会 編集局



日本書道芸術協会

2020-

1

巻頭言

— 謹賀新年 —

理事長 市澤静山

明けましておめでとうございます。

今年もどうぞよろしくお願いいたします。この一年が、書象会の皆様にとって、健康に恵まれ、前進、発展の年でありますようお祈りいたします。

書象誌の今号は七七〇号となります。昭和三十年十二月の創刊号の時、小学一年生で始められた方は、今七十歳になります。七十を越える会員の方々、壮年の方も若い方も、小学生の皆さんも、全員が同じように書象誌を手に持ち、月々新しくなる課題手本に向かって、一心に勉強して出品して来ました。まさに、書象誌を軸としたワン・チームの活動でした。今年もワン・チームで前進しましょう。

書象会は今年も、新年会、書象展、講習会、添削会等、例年通り開催を予定しています。大勢が参加されて盛り上げてほしいと願っています。皆様方の出席が書象会の力となります。

今年の新企画は書象展開催に合わせて、張廉卿書派の日中合同展を行うことです。二〇一七年には中国唐山市を訪問して張廉卿書派の両国の合同展を行いました。更に昨年五月には中国鄂州市の張裕釗書法文化博物館で上條信山先生作品と書象会の作品の招待展覧が開催されました。これを受けて、中国の張廉卿書派の方々にも出品をしていただき合同展を行うこととなります。

改組 新第六回 日展「沖邃」

特別会員 市澤静山



信山先生が築かれた張・宮島両先生の師弟愛を称えることから始まりました日中の交流が、初めて日本において花開くこととなります。

今年には東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。世界の眼は競技のみならず日本文化にも注がれることでしょう。書象展に入場される外国の方に感動を与えられれば素晴らしいことです。

昨年は度重なる強い台風が上陸し、甚大な災害をもたらしました。被災された皆様にお見舞申し上げます。復興のための作業はお辛いことでしょう。一日も早く復旧されることを願い、お身体を大切になさいますようお願い申し上げます。



笑容自然に開く

1月20日必着。入選作のみ発表します。出品券を貼付

楷書臨書規定【臨規】

(師範・準師範・段位)

化度寺碑

上條信山先生書



圓像。身心俱淨。

1月20日必着
出品券を貼付

- ・右上がりの角度を統一させ、整齊の美を心掛ける。画数の多い字は、大きくならないようにして、余白の美しさを意識する。

- ・偏と旁の間を広めにとる。

身身：左払いは細くならないよう、先端まで力を行き届かせる。 淨 俱 像



・文字の概形を意識して字形を正確に捉えたい。
 ・起筆、収筆、転折等の筆遣いをはっきりと。

開：背勢を意識しつつも、文字は窮屈にならないように。

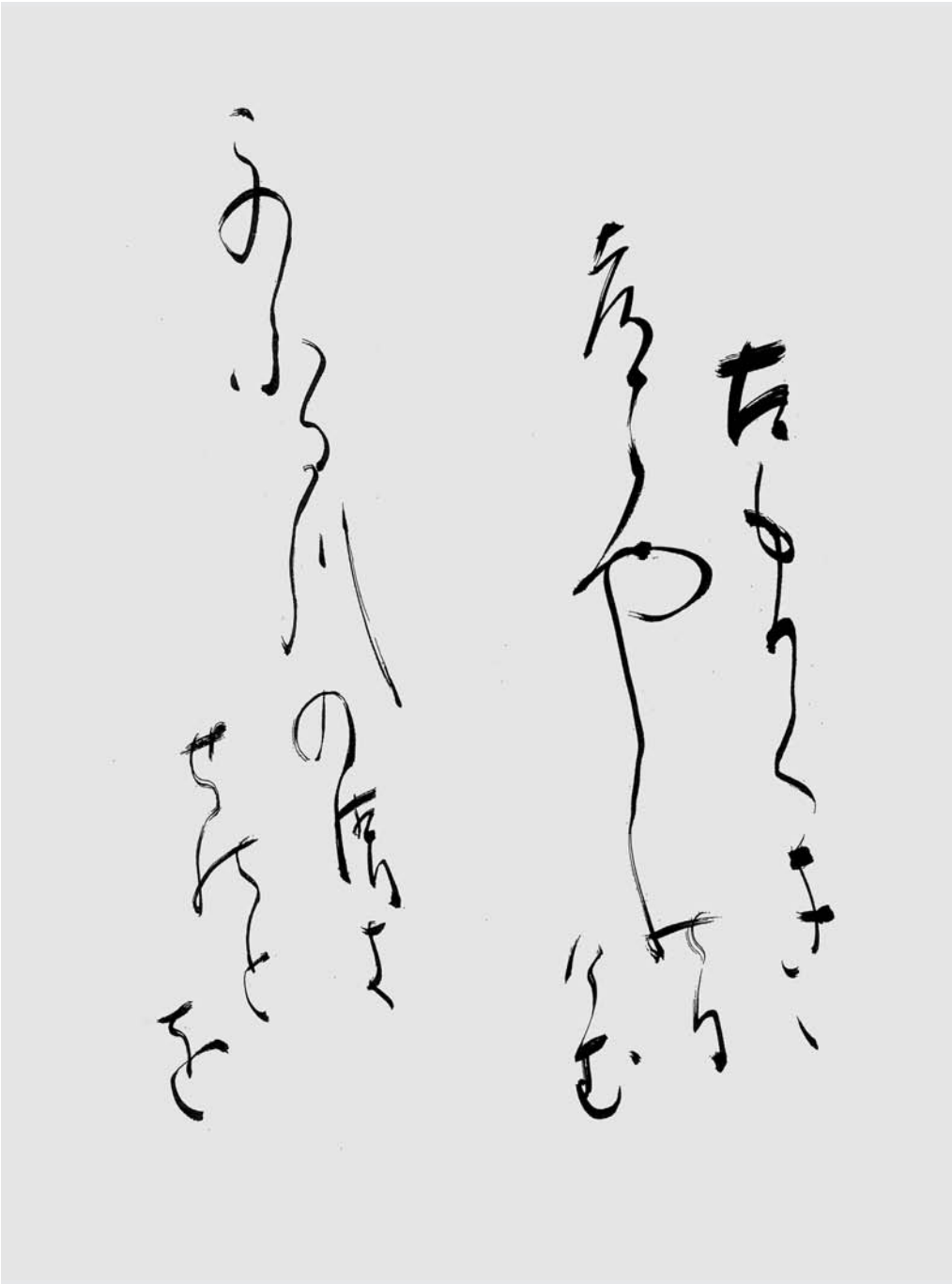


悟：点画の長短や接し方に注意する。



仮名規定【仮規】（師範・準師範・段位）

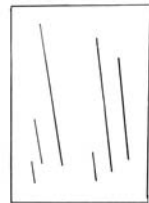
上條 信山 先生書



古もか(可)くきき(可)つ(都)つ(可)やし(能)び(日)け(介)むこのふる川の
清き(支)せ(能)とを
(万葉集)

1月20日必着
出品券を貼付

・全体構成は左図参照。



・三文字、四文字、五文字の連綿をくり返し練習して、確実に自分のものになりたい。

「もか(可)く」



「しの(能)び(日)」「や」から「しの(能)」にのびやかに続ける。

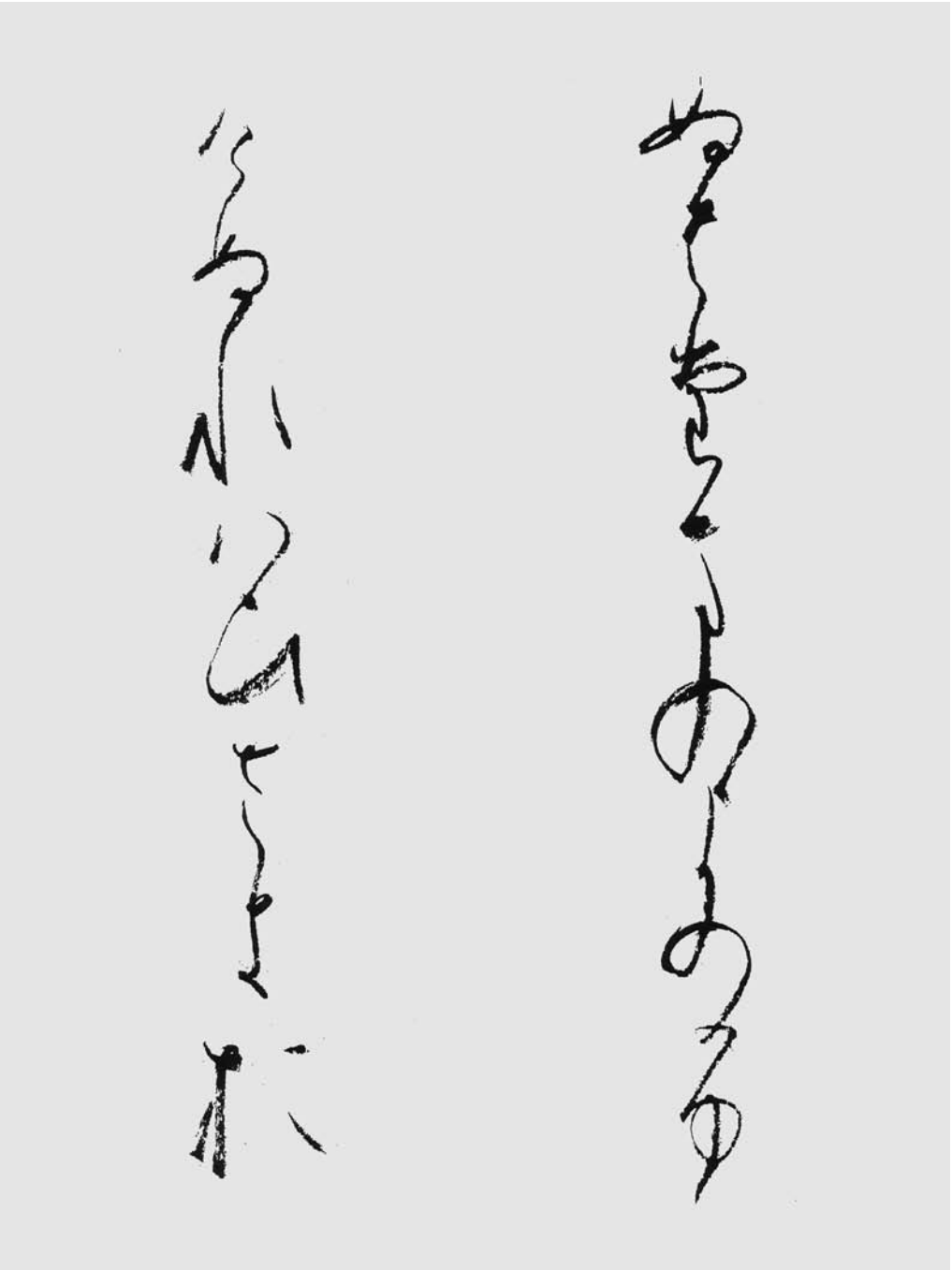


「の清き(支)」



「せ(能)と」





・連綿では手を休める位置を予め決めておくと、運筆にリズムが生まれる。
 ・その際、字形が乱れないように注意したい。

ぬば(者)た(堂)

「よのふ(布)」

「のろ

「ひさぎ(支)」

ひさぎ(支)

ぬば(者)た(堂)ま(万)のよのふ(布)け(介)ぬれば(八)
 ひさぎ(支)お(於) : (赤人)

研究【研究】 「張猛龍碑」 臨書

釈文 明聖。何勿恩深。



山口啓山先生書

雅尚



田中節山先生書



今月のポイント 大きな運筆を心がけ伸びやかに書きたい。

※どちらか一体を出品してください。



1月20日必着

出品券を貼付

入選作のみ発表します



春は満つ舊山河はるみ きゅうせんが しょうやまが (葉 颯句)

- ・「春」は左右の払いを長くしてバランスをとる。
- ・「山」は小さく肉太で。
- ・「河」の最終画は軽くのびやかに。
- ・「満」「舊」「山」はP14参照。

条幅随意【条随】

上條信山先生書

入選作のみ発表します

出品券を貼付



むめ(免)の(能)花かば(者)か(可)り(利)句ふ(布)春の夜の(能)やみは(者)風こそ(所)嬉しか(可)り(利)け(遣)れ (藤原顕綱)

- ・縦への流れを意識した貫通力のある作品を心がけたい。
- ・連綿、渴筆部分は細くならないよう留意する。
- ・「かば(者)か(可)り(利)」「春の夜」「嬉」はP14参照。

科 好
目 去 子

中学一年規定 【学毛】

山口啓山先生書

止 策
公 害 防

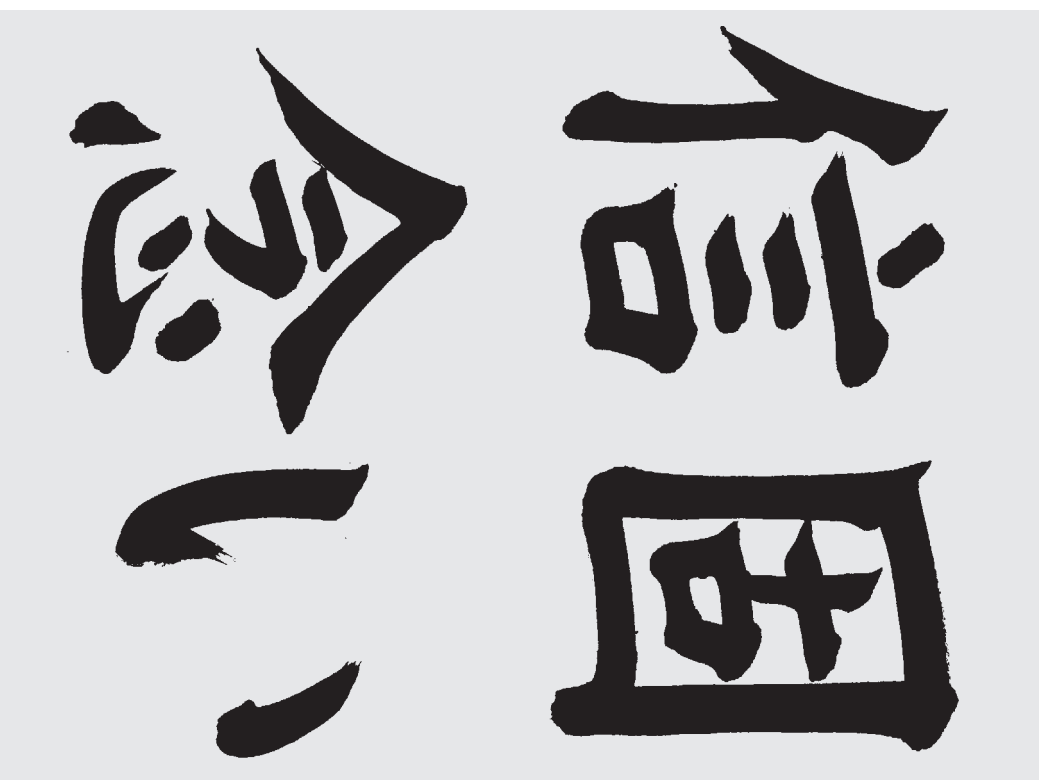
中学二・三年規定 【学毛】

中村魏山先生書



小学五年规定 【学毛】

久保妍山先生書



小学六年规定 【学毛】

石丸曉風先生書

支那の雷

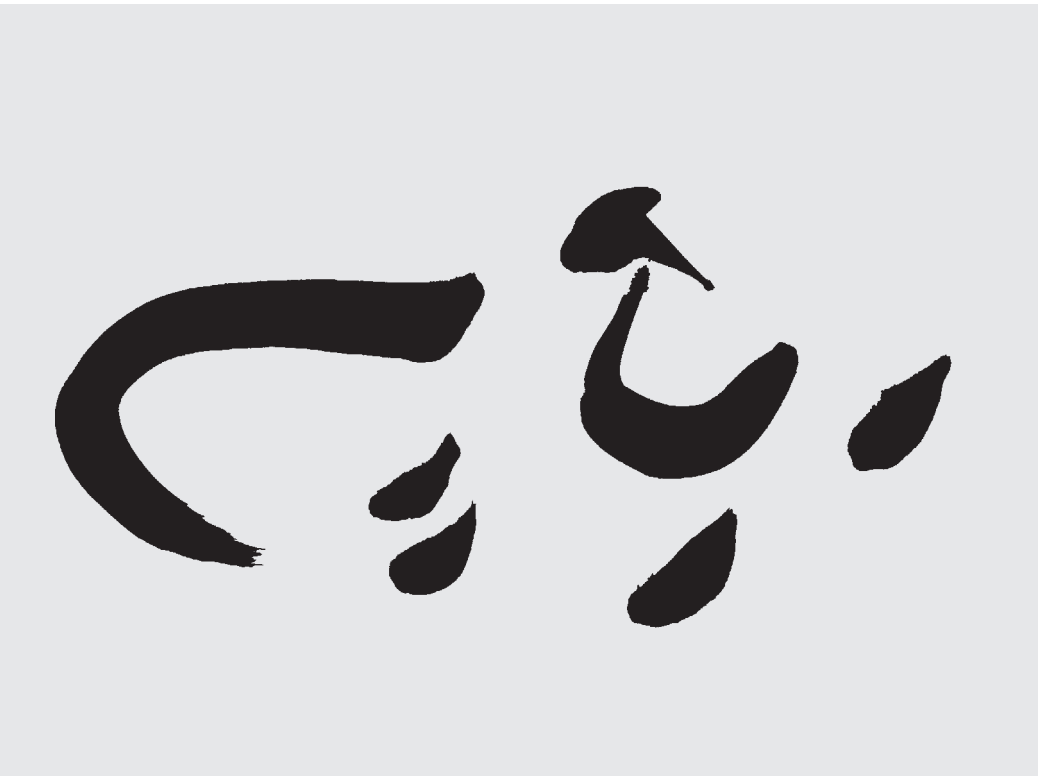
小学三年規定 【学毛】

宮本耕成先生書

夜更空

小学四年規定 【学毛】

樋口玄山先生書



小学一年規定 【学毛】

坂牛静心先生書



小学二年規定 【学毛】

杉山曉雲先生書

硬筆規定

一般規定【一硬】(師範・準師範・段位)

上條 信山 先生書

滝廉太郎、山田耕作、信時潔といった三人の作曲家は(ハ)西洋の(能)手法で日本人の心情を歌い上げている。

滝廉太郎、山田耕作、信時潔といふ三人の作曲家は西洋の手法で日本人の心情を歌い上げている。

一般規定【一硬】(級位)

二瓶 嶽風 先生書

帰りたけれど帰れない。故郷を離れていても双葉町はいつも心の中にある。震災掲示板から

中学規定【学硬】

藤岡月華先生書

恐竜は、この地球を一億年以上にわたって支配した、大変優れた生物種だったそうです。

小・中学生随意課題【学随】

左の字句を半紙に書いてください。

表現自由。入選作のみ発表します。出品券を貼付して下さい。

小・二年	車	小・三年・四年	時
小・五年・六年	出発	中学	和歌

手本解説

・硬筆一般規定(師範・準師範・段位)「廉」「時」「潔」「曲」は左図参照。

廉時潔曲

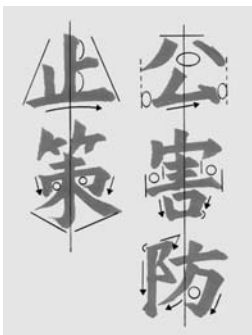
・隷書条幅規定「満」「舊」「山」は左図参照。

満 舊 山

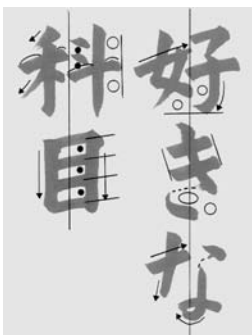
・仮名条幅随「かば(者)か(可)り(利)」「春の夜」「嬉」は左図参照。

かばりまの夜嬉

学生部規定



中学二・三年



中学一年

「公」の二画目を止める書き方は許容。
「害」の七画目は上の横画より長く書く。
「防」は六、七画目の方向に注意する。
「止」の二画目の横画は縦画の中央で接する。「策」の縦画のはねは許容。

「好」の五画目は右にややふくらませる。
「き」は二本の横画の長さや角度を意識し、「な」は三、四画目の筆脈を意識して書きたい。「科」の最終画は横画の中心より右寄りに、「目」は左右の縦画を垂直に。

小学五・六年規定【学硬】

柳澤玄嶽先生書

勉強を義務だと思ってはい
けない。素晴らしいチャンスだ
と思うことです。

名前

支部 年

級段

小学三・四年規定【学硬】

竹内墨洋先生書

今年の計画をしっかりと
立てました。「一年の計は
元旦にあり」

名前

支部 年

級段

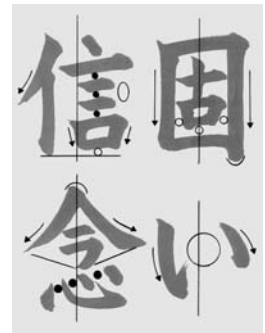
小学一・二年規定【学硬】

高瀬霞山先生書

よ	ヨ	ね
こ	ッ	ず
じ	キ	み
ま	は	の
だ	赤	ち
なまえ	と	口
支部	青	の
年	の	ち
きゆう		

※出品券を貼付
して下さい。

一般（師範・準師範・段位・一般（級位）・中学生はペン使用の
こと（中学生は鉛筆も可）。小学生は鉛筆使用のこと。
作品の大きさを下で18 cmよこ7 cm小一・二課題↓2.1 cmのマス目
の紙を使用する。小三・四・五・六課題↓2.1 cm巾の罫線を引く。



小学六年

「固」は口の左右の縦画を垂直に。「い」
の向かい合う線はやや丸みをつける。
「信」の口の左右の縦画はやや内側に向
ける。「念」のうは、左右の払いの中に
バランスよくおさめる。



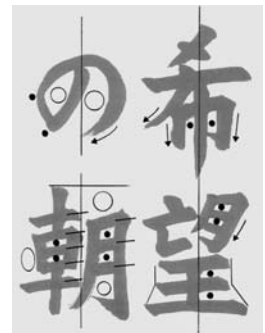
小学四年

「夜」は左右の払いが最大幅となる。「あ」
の二画目は左にふくらみを持たせ中心線
上。「け」は一・三画目の始筆の位置に注
意する。「空」は、を最大幅とし、五画目
は丸みを持たせて方向を変える。



小学二年

「つ」は払い抜く角度に注意する。「み」
は折れの後を長めに書き、結びは三角形
を意識する。「木」は左右の払いを伸び
やかに書き、最大幅とする。



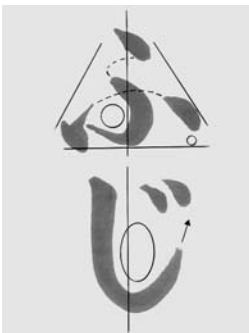
小学五年

「希」のメは小さく中心に書き、四画目
を最大幅とする。「望」の月は右にやや
傾け、王は扁平に。「の」は中心線上か
ら書き始める。「朝」は横画の方向を統
一し、月の上部はあける。



小学三年

「雪」は冠を幅広く、ヨをバランスよく
おさめる。「だ」は二画目の方向に注意
して書く。「る」は三角形を外形とし中
心線上で結ぶ。「ま」の三画目は中心よ
り書き始め、横広に結ぶ。



小学一年

「ふ」の外形は三角形。二画目は中心を
意識し、角度に注意して書く。「じ」は
中心より左から書き始め、丸みをつけて
右上に抜く。

古典研究シリーズ ④39 【古典】

曹 全 碑

後漢・中平二年（一八五年）

今月のテーマ

表現的臨書（最終回）



書き方

- ①文字数は自由。7月号から今月号に掲載している中であればどの部分でもよい。
- ②落款を入れて下さい。
- ③作品の表左下に、支部名と氏名、又は号を鉛筆で記入して下さい。古典研究の出品券を貼付して下さい。（編集部）

表現的臨書：線に主観を加える。

〈手順〉①最初に写実的臨書を何回も繰り返し、

徹底的に「形」に迫る。

②形が把握できたら、その形を守って

線に作者の意志を働かせ、線表現を試みる。

試みる。

〈方法〉A、運筆に変化を与える。

・筆圧を加える。

・遅速緩急をつける

・細太、強弱をつける。

B、筆の種類を変える。

・短鋒、中鋒、長鋒、羊毛、兼毫、

剛毛、鶏毛、竹筆など使ってみる。

C、墨色を工夫する。

・濃墨、淡墨、にじみ、かすれを効果的にする。

D、様々な用紙を用いる。

・厚め、薄め、つるつる面、ざらざら面、染紙など使ってみる。

※試行錯誤を繰り返し、新しい線表現を試みて下さい。

※参考―現代臨書大系（小学館）

王畢。主簿王歷。戸曹掾秦尙。功曹史王顥等。嘉慕奚斯考甫之美。乃共刊

「視る 上條信山《良寛のうた》」

松本市美術館の松本美術館NEWS「あーとふる」(2019・7 Vol 60)に上條信山先生の仮名作品《良寛のうた》が紹介された。本作の見どころについて、本会理事の大島岐山先生(松本美術館・学芸員)の解説を掲載する。

彩色された紙に流麗な線が共鳴し、品格が漂う。江戸時代の僧侶・良寛の歌を書いた上條信山の仮名作品。その格調はどこから生まれるのか。仮名の表現や信山書風の特徴から紹介したい。

平仮名の成立は、西暦900年前後のこと。現在使われる「あ」から「ん」までの平仮名のほか、明治期までは一音に複数の平仮名があり、「変体仮名」と呼

ばれている。今では読みづらい文字となっていたが、現代の書作品でも用いられているのには理由がある。日本文化の継承的な意味もあろうが、それが主ではない。壁画芸術としての書において、造形的なイントネーションやアクセントなど、表現の幅が格段に広がるためである。装飾された紙「料紙」も仮名文化と共に発展してきた材料であり、書を一層



久方の 雨にぬれつつ 時鳥 鳴く声聞けば 昔思ほゆ
(雨にぬれながらほととぎすの声を聞いていると、昔のことが思い起こされる)

作者：上條信山(1907~1997年)
作品名：《良寛のうた》
制作年：1980年代 彩箋・墨書
サイズ：136.2×34.2

雅やかに引き立てる。

墨の色はどうか。「連綿」と呼ばれる続け字で一気に書き進めることにより潤濁が際立ち、さらに墨を足す位置を一行目と二行目とで変え、左右対照的な立体感や奥行きを生んでいる。

そして、「散らし書き」と呼ばれる仮名の手法。料紙の色味に合わせ、敢えて行頭の高さを変えたり、二行目の下部だけ中心をずらして斜めにしたり、変化をつけることで、余白に響きや余韻が感じられる。

最後に信山書風について。作者の個性が顕著に表れ、書の生命とも言えるのが「線質」である。上條信山の仮名は、平安時代の藤原行成の書風に習うところが大きい。その背景には、主に漢字作家として中国古典に学んだ書法がある。スピード感と骨力のある線で、颯爽として、潔い印象を与えるのが大きな特徴と言えるだろう。

改組新第6回

日展

◆会期（東京展）

令和元年11月1日（金）

～24日（日）

◆会場 国立新美術館

長胤詩句



会員 内藤望山

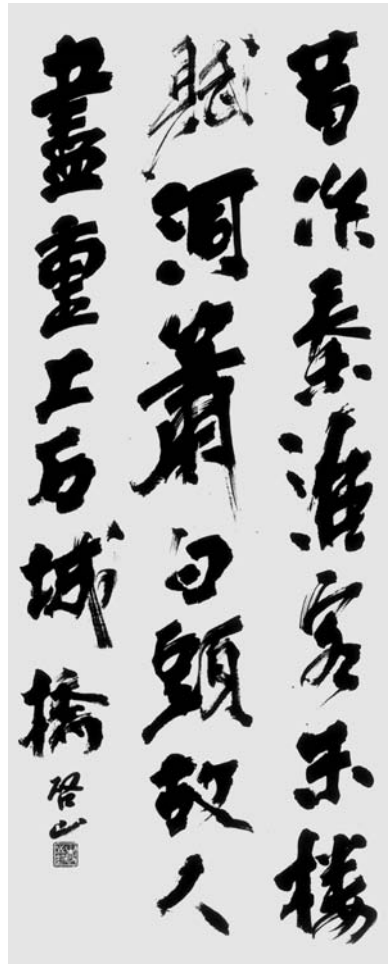
降魔



特別会員 田中節山

王漁洋詩

特選 山口啓山



二回目の特選を受賞して

山口啓山



この度の改組新
第六回日展で二回

めの特選を拝受することができました。日頃の皆様のご支援の賜と心から感謝申し上げます。一回めの受賞から数えて十二年めでの受賞となりました。試練の一年一年が想い出されて喜びも格別です。その反面「重いものを背負った。重いものを背負わされた」というのも正直な実感です。今後は、この重いものに対峙する為、精進の限りを尽くし一人の書家として一人の人間として成長していきたいと思えます。これからもご指導ご鞭撻の程宜しく願います。

【特選受賞理由】

張廉卿、宮島詠士の流れを汲むこの作は、刃物で刻んだ如きの切れ味鋭いシャープで強靱な線により、崇高な気を発し、躍動感溢れる点が見所。類型の中にあっても、その群を抜く珠玉の逸作である。

文心雕龍句



柳澤玄嶽



寒山詩（帖部分）

烟 中 高 山



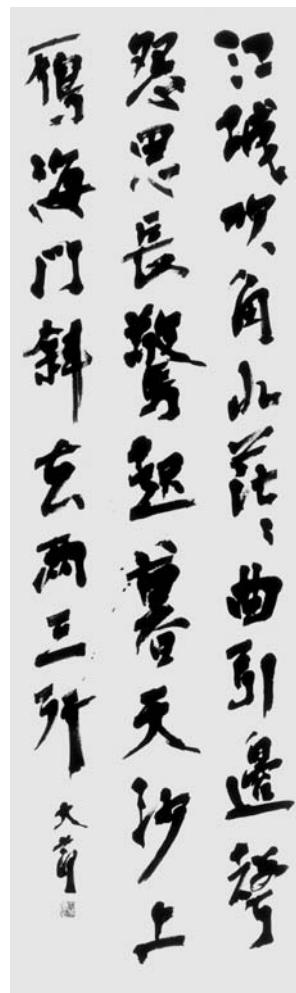
都在中ノ詩

恩 田 靜 月



李賀詩

寺 尾 碩 雲



李涉詩

藤 森 大 節

戯墨

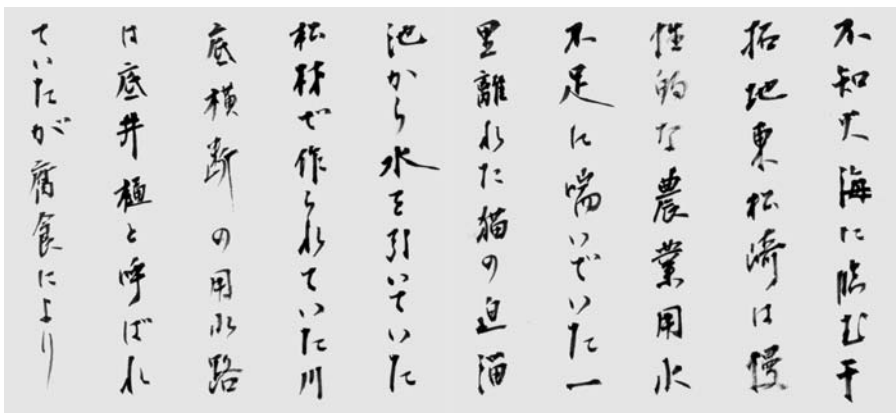


宮本耕成

李白詩



洪江蛟雲



昭和の農聖松田喜一の祖父喜七について（卷子部分）

中川汀松

改組 新 第 6 回 日 展 巡 回 日 程 (予 定)

開催地	会 期	会 場	開 催 者
東 京	令和元年11月1日～11月24日	国 立 新 美 術 館	公 益 社 団 法 人 日 展
京 都	令和元年12月14日～令和2年1月11日	京 都 市 美 術 館 別 館 みやこめっせ・日図デザイン博物館	日 展 京 都 展 実 行 委 員 会
名古屋	令和2年1月29日～2月16日	愛知県美術館ギャラリー	中 日 新 聞 社
大 阪	2月22日～3月22日	大 阪 市 立 美 術 館	日 展 大 阪 展 実 行 委 員 会
安曇野	4月25日～5月17日	安曇野市豊科近代美術館	安曇野市豊科近代美術館 公益財団法人安曇野文化財団
金 沢	5月23日～6月14日	石 川 県 立 美 術 館	北 國 新 聞 社
長 崎	6月21日～7月20日	長 崎 県 美 術 館	長 崎 県 美 術 館 テ レ ビ 長 崎

(注) 会期は変更することがあります。

第五十回記念 玄武書道展

会 期 十一月十二日(火)～十七日(日)
会 場 東京銀座鳩居堂画廊



杉 山 暁 雲

第十二回 葛飾現代書展

会 期 十一月十六日(土)～二十二日(金)
会 場 かつしかシンフォニーヒルズ本館
2Fギャラリー



露 崎 玄 峯



小 川 仙 草

二〇一九『巳歳の会』書展

期日 十一月十九日(火)～二十四日(日)
 会場 東京銀座画廊・美術館(7F)

藤澤珠玉



市澤静山

吾儒ニ去ク水流急ニ任セテ境常ニ
 静カニ花落ツル頻リテト雖モ意
 自カク閑アリト人常ニ此ノ意ヲ持
 シテ以ツテ事ニ應ジ物ニ接スレバ身
 心何等ノ自在ゾ 菜根譚 珠玉



山口啓山

故入西辭黃雀樓煙花
 三月六揚州
 平天白彦全虎

杉山窓影



鈴木春鳳

古人吾不見薄俗而誰親秋而初涼夕間庭獨坐人聲聲吟砌
 苦燈影動牆新拙架陳編在渠老此身晚齊江天豁新秋物
 色涼幽花樓宿而高柳錢針陽帆稻短時熱杜鰲破鼻香時疑
 欣歲檢更惜日持觴惜然羣籟靜塊獨坐空堂幽力

武原幽節

第52回一照会書道展

会期 十月二十六日(土)～二十七日(日)
会場 舞鶴西駅交流センター
主催 一照会(多田照楓先生)

例年この時期に作品展を開催していますが、窓の外のケヤキの葉がいつもより紅葉が遅れているように感じられました。前日の雨もやんで、当日の朝刊には写真入りの二段書き記事で掲載されたので、多くの来場者を期待しました。しかし、他の催し物とも重なり多くの来場者とはなりませんでしたが、その分ゆっくりと鑑賞していただけたのではないかと思います。

会場中央に上條信山先生の仮名作品、両側にご指導いただいた魚住卿山先生と多田先生の作品、周りに会員の作品を配置し、中央の机と受付前には第



魚住卿山先生と多田照楓先生を囲んで

十六代京都大学総長平澤興先生の軸装の手紙文と渋澤栄一氏の横額を展示しました。

初日にはご多忙の魚住先生に、書道のあり方や楽しみ方などについてお話しをお聞きし、その後会員の作品について御講評をいただきました。

会員の高齢化は否めませんが、これからも書道に親しみ楽しむために努力していきますので、ご指導ご鞭撻の程お願いいたします。

(中邑弦照記)

第28回書象会瀬戸支部書道展

会期 十月二十八日(月)～十一月七日(木)
会場 品野郵便局ギャラリー
主宰 長谷川石心先生

令和元年十月、すばらしい秋晴れに恵まれて、品野郵便局のギャラリーにおいて、第二十八回めの書道展を開催いたしました。

展示作品は十九点と小規模ながら、二十代から九十代までと老若男女の力作が並びました。楷書、行書、隷書、調和体、仮名とそれぞれ個性のある作品ばかりです。中には黒リボンの作品もあり、その作品の前に立つと感慨深くこみ上げるものを感じました。孫娘も先輩達に刺激を受けて、毎年出品し良い勉強をさせて頂いています。私も年齢と共に筆力の衰えを感じ恥ずかしくも覚えていますが出品できることの幸せを有り難く思っています。二十八回と長く続けてこられたのも皆さんのご協力があったこそ、そして無事終了いたしましたことを感謝いたします。(長江喜春記)



整然と作品が並ぶ会場



親子四代で、はいポーズ

令和二年 実技講習会

「第五十九回書象展の作品をつくろう」

令和二年実技講習会「第五十九回書象展の作品を作ろう」を左記のとおり開催いたします。

お仲間お誘い合わせの上、是非ご参加いただきますようご案内申し上げます。

◆日時 令和二年二月九日(日) 午前十時 ～ 十六時

受付 九時五十分より

◆講師 田中 節山 先生 藤森 大節 先生

◆持参用具 書道用具一式

筆 大筆 小筆

墨 固形墨・墨汁

硯 普段お使いの硯(墨池より硯がのぞましい)

紙 各自が出品する資格の規格用紙

下敷き・文鎮・水差し・新聞紙(二枚)

筆記用具

◆会場 武蔵野公会堂 三階 第四室

◆会費 三千円

◆定員 二十名

◆申込み 書象会本部までお早めにお申込ください。

☎ 0422(53)9743

書象会研修部

書道教室紹介ページ申込みについて

書象会ホームページでは書象会の活動や上條信山先生の紹介、書象誌に関することや展覧会の案内に加え、書道を習いたい人向けの『書道教室紹介』のページを掲載しております。

- 1 申込方法 支部紹介掲載ご希望の先生は、ホームページ掲載登録用紙を書象会本部迄ご請求ください。
登録用紙が届き次第、支部紹介登録用紙【A】もしくは支部紹介登録用紙【B】のいずれかを選び、書象会本部までご返送ください。
申込用紙の送付と費用振込の確認完了次第、順次ホームページに掲載いたします。
- 2 掲載内容 支部紹介登録用紙【A】
教室名 指導者名 所在地 最寄り駅 連絡先 稽古日 月謝 指導者の紹介の8項目を掲載します。
また「教室のPR」と「支部長先生ホームページアドレス」を掲載します。
支部紹介登録用紙【B】
教室名 指導者名 所在地 最寄り駅 連絡先 稽古日 月謝 指導者の紹介の8項目を掲載します。
- 3 年間登録料 支部紹介登録用紙【A】→年間2,000円
支部紹介登録用紙【B】→年間1,000円

※書象会ホームページの書道教室紹介ページに関するお問い合わせ等は、書象会本部までお願いいたします。
書象会ホームページ「書道教室紹介」はこのアドレスでご確認ください。

shoshou.com で今すぐクリック

特待生紹介

(学年は試験合格時のものです。)



達成

小光支部 中三

吉成 遥

私は、小学二年生から書道を始め、ようやく特待生になることができました。ずっと目標にしていたのでとても嬉しく思います。先生には本当に感謝しています。これからも、高みを目指して頑張ろうと思います。支部長先生より一言 特待生の特待生、本当におめでとう。吉成さんは目標をもって通っていましたね。これからも頑張ってくださいね。

特待生になって

練馬支部 中二

山畑 愛菜



私は小学一年生の時から書道を習い始め、ようやく特待生に合格することができて嬉しいです。中学生になって部活や塾で休む日も多くなりました。たけれど次は硬筆も特待生になれるように頑張ります。支部長先生より一言 部活動や通塾で忙しくなりましたが、よく努力していますね。硬筆合格を目標に頑張ってください。

念願の特待生

小光支部 中二

井上 結愛



今回、硬筆の特待生になれて、とてもうれしいです。一度、試験におちて悔しい思いをしただけで、あきらめずに試験を受けて良かったです。次は毛筆でも特待生になれるように頑張っていきたいと思います。支部長先生より一言 お姉さんに続いて特待生おめでとう。めきめき実力がついて来て、再挑戦して良かったですね。



先生の存在

湊支部 中二

上條 亜美花

私はこの度、習字を始めた時からの目標、特待生に合格することができました。特待生になることができたのは、日々書道を教えてくださる先生のおかげだと思っています。今までありがとうございました。支部長先生より一言 特待生おめでとう。幼少から目標をもって明るく熱心に取り組んだ成果です。次の目標は二冠ですね。

念願の特待生

杉支部 中一

後藤 雅登



僕は小学一年の時から習い始めました。中学になって勉強や部活が忙しくなっただけで大好きな書道は続けた事で特待生になり、嬉しかったです。硬筆も特待生になるように頑張ります。支部長先生より一言 長い年月、休んだ事があります。理解力、集中力がありいつも立派な字を書きます。続けて下さい。

日々精進

雅支部 中三

山口 花音



今回、硬筆と毛筆で同時に特待生になることができたこと、とても嬉しく思っています。熱心に指導してくださった先生、支えてくれた家族に感謝し、これからはより上手な字を書くことを目標にしていきたいです。支部長先生より一言 一挙に二冠達成、花音さんの書道に取り組む真摯な学習が実った。次の目標に向かって頑張ります。



努力と感謝

湊支部 中二

花岡 侑奈

私は小学三年生の頃から習い始めました。左利きの私が右手で書道をするのは難しかったですが、毎週習っているうちに書くことに慣れてきました。特待生になったのも積み上げてきた努力と先生のおかげです。支部長先生より一言 合格おめでとう。学生書道展でも奨励賞で左利きを全く感じさせない成績は見事。硬筆も期待します。

水滴、石を穿つ

聖支部 中三

木藤 南海



私は、今回硬筆での特待生になることができました。「水滴石を穿つ」という言葉がありますが、私の好きな言葉で、まさにこの状況だと思います。今まで教えて下さった先生に感謝です。毛筆も頑張りたいです。支部長先生より一言 合格おめでとう。吹奏楽部との両立に頑張ったね。目標は、毛筆特待生。更なる達成に期待します。

特待生!!

湊支部 中三

古木 優羽



私は、小学四年生から始め、今回二回目の試験で特待生に合格しました。すごく嬉しいです。教えて下さった先生方、応援してくれた家族に感謝の気持ちでいっぱい입니다。本当にありがとうございました。支部長先生より一言 優羽さん、特待生合格おめでとう。県展と入賞で最後まで良く頑張りました。進学後も更なる飛躍を。

特待生紹介

(学年は試験合格時のものです。)

感謝



美那支部 中三

高橋 真彩

私は、小一から書道を習い始め、遂に二冠達成ができました。今までお世話になった先生、家族をはじめ、周りの方々への感謝とうれしい気持ちでいっぱいです!! 本当にありがとうございます。
支部長先生より一言 二冠達成おめでとう。習字で頑張ってきたことを今後の勉強やスポーツに生かして下さいね。

新たな目標



龍文支部 中三

河合 野乃

やっとのことで硬筆も特待生になりました。六年半、地道に取り組んできた成果が報われた気がします。でもここで終わらせません。アートの世界に興味があるので、書道とアートを融合させたものに挑戦してみたいです。
支部長先生より一言 二冠達成おめでとう。更なる夢に向かう野乃さんの姿勢、素敵ですね。花開くその日が楽しみです。

二冠達成



茅野支部 中三

内田 くるみ

硬筆で特待生になりました。毛筆に続いてなることができたので良かったです。先生のおかげで、二冠達成することができました。ありがとうございます。
支部長先生より一言 二冠達成、書道と部活の美術の両立を、休まず続けて来た頑張り屋さん、本当におめでとう。

特待生になって



この葉支部 中三

清田 波琉

特待生になって習字を始めた五年前を思い出しています。小四の時、筆で「夏」と書いて先生から大きな花丸をもらった事は忘れられません。習字の楽しさを教えてくれて感謝しています。高校生になっても頑張ります。
支部長先生より一言 開塾一号の特待生。後に続く皆の手下です。二冠達成を目指して更に頑張ってくださいね。

八年



茅野支部 中二

伊藤 瞭介

小学校の一年生のときに書道を始めたので、今年でもう八年間書道をしています。そして、今年やっと特待生になりました。ここまで先生と両親の支えがあったから続けられました。ありがとうございます。
支部長先生より一言 合格おめでとう。これから毛筆の合格にむかって集中して、沢山書き込みしましょう。

え/硬筆も



美那支部 中二

井伊 彩月

最初に毛筆の特待生になり、流れにのって再び硬筆でした。友達と始めた習字、初めは特待生になるなんて考えていませんでした。その友達は辞めてしまいましたが、私は辞めなくて良かったと思います。
支部長先生より一言 中学生になっても辞めずにあっという間に二冠達成できた彩月さん素晴らしいです。ほんとにおめでとう。

目標達成



名東支部 中二

黒田 千尋

私は小学校一年生の途中から習字を始めました。小学生のころから目標にできた毛筆の特待生になることができました。次は硬筆で特待生になることができようがんばりたいです。
支部長先生より一言 毛筆合格おめでとう。中学からは部活後の夜の稽古に休まず通いました。送迎してくれた両親に感謝!!

二冠達成



名東支部 中二

近藤 咲季

毛筆に続き硬筆も特待生に合格し、二冠達成することができ、とても嬉しく思っています。指導してくださった先生や、支えてくれた家族への感謝を忘れず、これからも頑張っていきたいと思えます。
支部長先生より一言 二冠達成おめでとう。いつも丁寧に美しい字を書いてきました。今後も継続して色々な書体を学んでね。

特待生



茅野支部 中二

真道 裡未

私は、小学一年生の頃から習字を習い始めました。最近になって意識し始めた特待生に合格でき、とても嬉しく思っています。丁寧に指導して下さいました。送迎などで支えてくれた両親に感謝しています。
支部長先生より一言 合格おめでとう。これからも続けて、毛筆の合格を目指して頑張りましょう。

少年少女のページ 「わたしの会の仲間達」

杉月支部 小三 増田 あこ



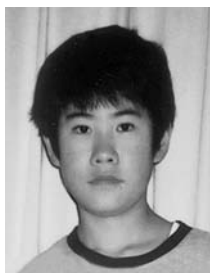
仲良し姉妹の妹あこさん。お習字もピアノも良きライバル。元氣いっぱい字を書き写真版にも良くのりまます。かわいい人気者です。

大阪支部 小五 安田 有花



造型教室に通っていて図工が大好きです。ピアノや塾も頑張っています。お友達と仲よく、こやかに筆を持っている姿が印象的ノどんどん上達しています。

月支部 中二 神崎 隼翔



部活のバドミントンの練習もしっかりこなしながら、書道もほとんど休まずおけいこにきて黙々と練習している隼翔君。特待生まであと一步。ガンバレ!!

竹華支部 小五 藤嶋 可英



小一より休まず教室に来ています。性格は温和で素直それだけに上達は早く伸び伸びと暖かみのある字を書きます。半紙随意で写真版にも載りました。

仙台支部 小五 佐藤 瑚ノ心



逆立ちや側転の得意なほのあちゃん、じっくり取り組む瑚珀ちゃん。違ってみえるけど、筆を持った時の真剣な目は同じ。これからはがんばってね!

月支部 中一 鈴木 大之



笑顔がさわやかな大之君は、地元のサッカーチームのデイフェンスで活躍中。書道もこのころメキメキ上達。お姉さんに続いて特待生をゲットしよう!!

照澤支部 小五 宮川 綾華



〈柚那さんへ〉いつもふざけあっているけれど、そんな柚那さんが大好きです。：綾華より〈先生より〉綾華さんも柚那さんも書道が大好きです。

照澤支部 小五 高橋 柚那



〈綾華さんへ〉いつもやさしく、いっしょにいてくれる綾華さんが大好きです。：柚那より〈先生より〉仲よく元気に書道に来る二人がうらやましい。

桜木支部 小四 野村 みのり



明るい性格で活発なみのりさんは、澤ちゃん教室の人気者です。納得がいくまで、じっくり練習をしています。将来は、書道の先生になれると思います。

大阪支部 小五 山本 正



たくさんお話をしてくれ、いろいろな事を教えてくれます。お友達の仕事にも良く気を配ってくれます。注意深く書いている姿も印象的です。頑張ってます。

城彩支部 小六 平田 賢哉



毎週休まず母子で通っています。六年生になって更に集中力が増してきました。野球部ではピッチャーをつとめ、チームの皆と楽しく野球の腕を磨いています。

聖支部 小五 町田 翔



バスケットクラブに所属し、手先の器用さで手芸も得意な男の子。明るくやさしいクラスの人気者です。文字に力強さが加わるといいね。期待してます。



△隷書条幅▽ 評 樋口 玄山

白 葉 小ぶりだが余白に清冽な響きあり。

壮 山 美しいニジミ、墨の使い方に練度あり。

泰 仙 墨量豊かな作品。落款の入れ方は抜群。

豪 峰 毛がよく立ち、渴筆に牙えを見せた。

優 月 腕の動きが線に息の長さを見せている。

霽 彩 正確な形。真面目な書きっぷりが良い。

晶 山 偏平な構造、重厚な線質に練意あり。

春 光 決して急がずゆったりとした連筆が良い。

△条幅随意▽ 評 柳澤 玄嶽

島村霞草 伸びやかな線と大胆な書きっぷりが佳。

鈴木花照 軽快なりズムが冴えわたった清烈な作。

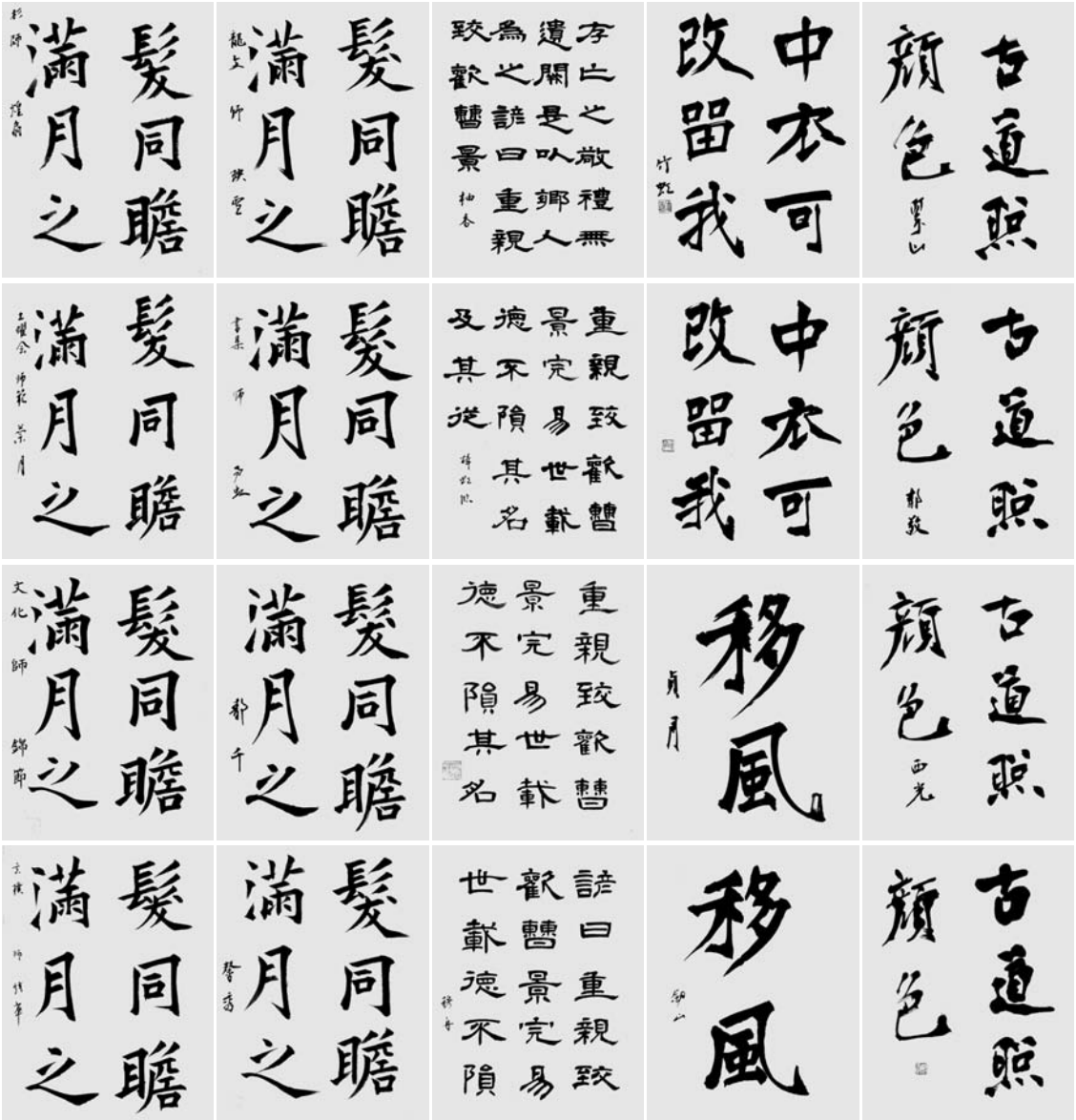
金澤瑠月 鮮やかな線で幽雅な美しさが光る佳作。

△通信条幅▽ 評 大澤 梢光

飯田天澄 手本に忠実、強さと張りのある線が魅力。

大村玻玉 基本に忠実な用筆で、隸意形体把握良し。

北村照節 この軽い連筆は練度の深さを示す。



基本課題 評 白濱 静苑

林田翠山 骨力ある線質で形よく品格ある作品です。
増山静敬 墨色豊かで落ち着きがあり格調高い作品。
伊藤西光 鋭い線が見事に生きた作品となった。
吉澤寂翠 大胆な運筆で墨量豊かに充実感満点です。

研究課題 評 渡辺 華雪

藤澤竹虹 配字、線質の強さ、余白の美、品格有り。
中田皓花 線質がのびやかで安定感有り魅力的作品。
小林貞月 運筆の伸びと墨色が抜群、明るい作。
関澤劔山 墨量豊かで逆筆のきいた力強い作品。

古典課題 評 西野 江月

中尾柚香 墨量十分で重厚感あり。紙面を制する。
萩原梓虹 自由な運筆で伸びやか。明るくまとめた。
斉藤泉秋 正確な用筆で動きあり。全体感よし。
加藤穆舟 丁寧な運筆でバランスよく配置。

師範部 評 柳澤 玄嶽

△楷書▽

川島映雪 伸びやかで清冽な線質明るい布置ともに大佳。
金山雨虹 強靱な線質で腕法を効かし安定感有る作。
平林静千 墨量豊かで揺ぎ無い線質に充実感が溢れ出ている。
松岡馨秀 端正な点画で文字構造に余裕が有る豊かな作風。
吉田煌扇 丁寧な運筆に雅味を含んだ線、空間処理も佳。
神谷蘭月 等圧で深みのある線と一貫したリズム品格高し。
西 錦節 点画の確かさと全体感の良さが目を引く。
杉本統華 切れ味の良さに筆遣いの巧みさを見た。



塩谷翠桐 正確な筆遣いで静かな筆致が書的心境を深めた。

森村湖亭 緊張感のある凜然とした格調高い作。

田島涛仙 含墨豊かで重厚さと深みを表現した。

樋口志豊 写実に徹し揺ぎ無い背勢の構造美を修得した。

大西揚舟 運筆に遅速よろしきを得、練度の高さを表現。

岸 葉草 等圧の線表現で静韻な味の出た努力作。

垣内孝子 基本に忠実でパネの効いた穏やかな作。

石原翠幸 濃墨でありながら腕法を効かせた豊潤な作。

△仮名▽

評 杉山 曉雲

中島泰慧 優しいタッチで伸びやかに書けた秀作。

井上雅幸 直線と曲線が効果的に配置され楽しい。

三浦径石 弾力のある連綿は練習の賜物、美しい。

今井華遥 筆が立っていて澄みきった線で書けた。

有賀蒼玄 濃墨により潤濁の変化が大胆に表出。

佐藤江蕙 余白の美しさが極立つ、渴筆も美しい。

宮澤朝花 回転の部分を堅実に書きこなして見事。

坂齊和子 濃墨が余白に効いて鮮やかな美しさ。

藤牧峰雪 羊毫と思われ、タッチが柔らかく美しい。

松尾詠舟 大小長短のまとめがよく、余白が美しい。

高橋太一 おおらかな回転が大胆で力強い表現。

吉池採舟 筆が割れてもリズムを失わず書けた。

久喜中三 石井 蓮花 素直	小ニ ゴけムし	小四 高森 結萌 かな 文 字	千曲 六年 悠美子 思 存 分 う	中ニ 清水 栄花 町の音 楽会
小六 永石 咲季 坂道	小ニ ゴけムし	四年 湯木 往貴 かな 文 字	鈴鹿 小六 二下 万代 滯 思 存 分 う	中ニ 舞奈 町の音 楽会
小四 竜也 活	小ニ みち	三年 鎌宮 美央 は 夕 ん ごと	小五 彩華 走 子 犬 走 子 犬 走 子 犬 走 子 犬	中一 多田 大輝 読 書
二年 ゆうき 石	小ニ みち	三年 山岸 聖果 は 夕 ん ごと	龍文 羊 走 子 犬 走 子 犬 走 子 犬 走 子 犬	中一 優那 読 書

学 生 部

評 田中 珠光

清水栄花 伸びやかな線で形も良く、素晴らしい。
 齋藤舞奈 しっかりした線で、文字の配置もうまい。
 多田大輝 明るい作品。始筆、終筆もうまい。
 米村優那 全体のバランス良くスキのない作品。
 黒田悠美子 大変力強く、大きくどっしりした秀作。
 万代 滯 明るく伸び書きした。空間も美しい。
 斉藤彩華 大きき、形共に上手に書いている。秀作。
 小松崎華 字形良く、一画一画をしっかりと書けた。
 高森結萌 大変上手にまとめられている。名前も佳。
 湯本律貴 ていねいな筆使いで、字くばりがうまい。
 鎌宮美央 すなおな線で、形の整った明るい作品。
 山岸聖果 どっしりとした線で、しっかりかけた。
 齊藤諒太 平がなとかたかな、よくできました。
 服部素開 大ききもそろい、うまく書けました。
 上原惺梨 “み”のふでづかいがとてまじょうず。
 西脇湊友 “ち”のかきかたがすばらしい。

半紙 随意

評 関 香風

石井蓮花 形よく、線よく、位置よく、名前もよし。
 永石咲季 のびやかで、神経がゆきとどいた作品。
 藤崎竜也 強い気持ちが入って堂々としている。
 吉村優来 しっかりしたせんでかたちよくかけた。

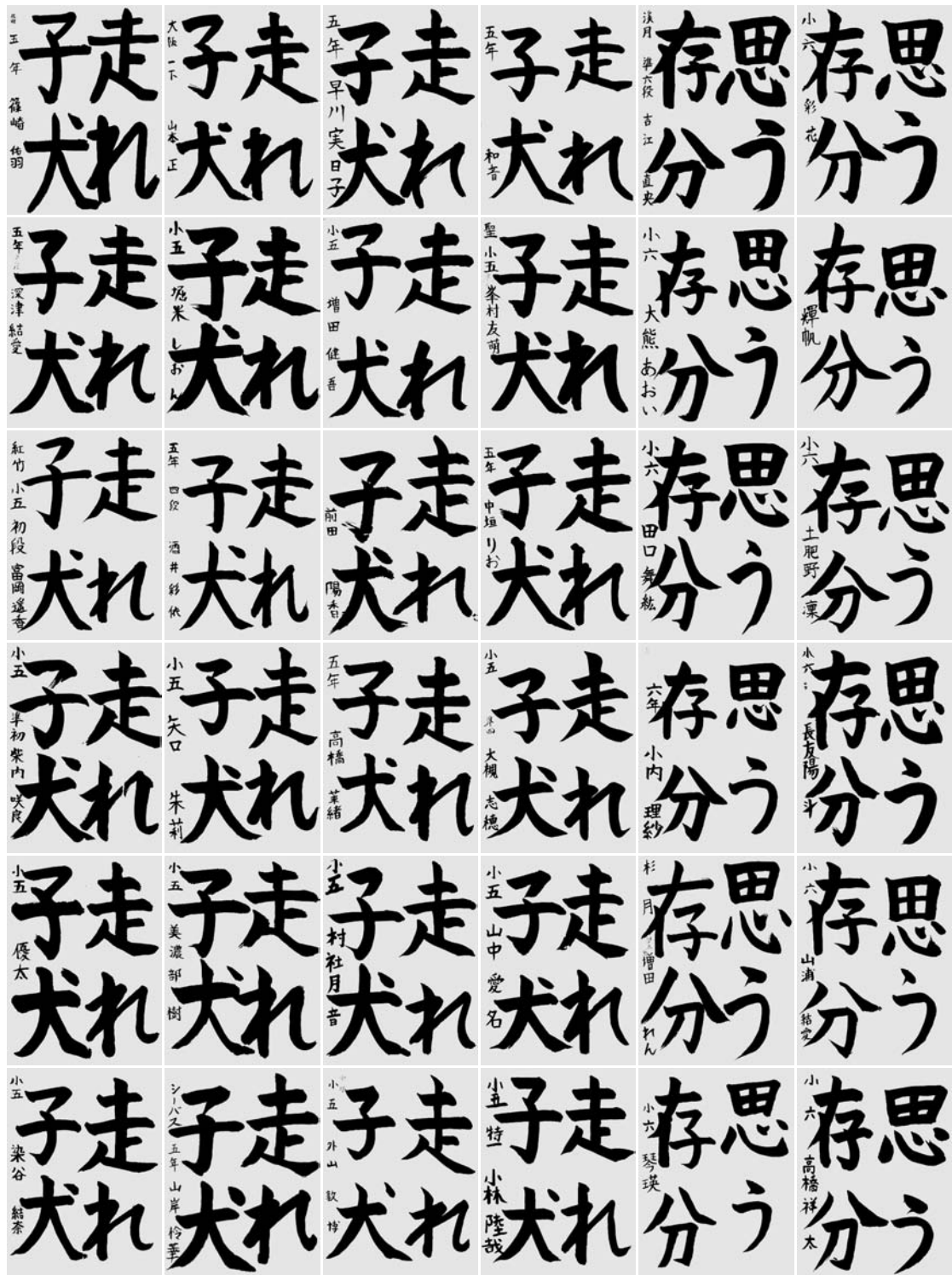
このページに掲載された人には書象会より記念の筆をさし上げます。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

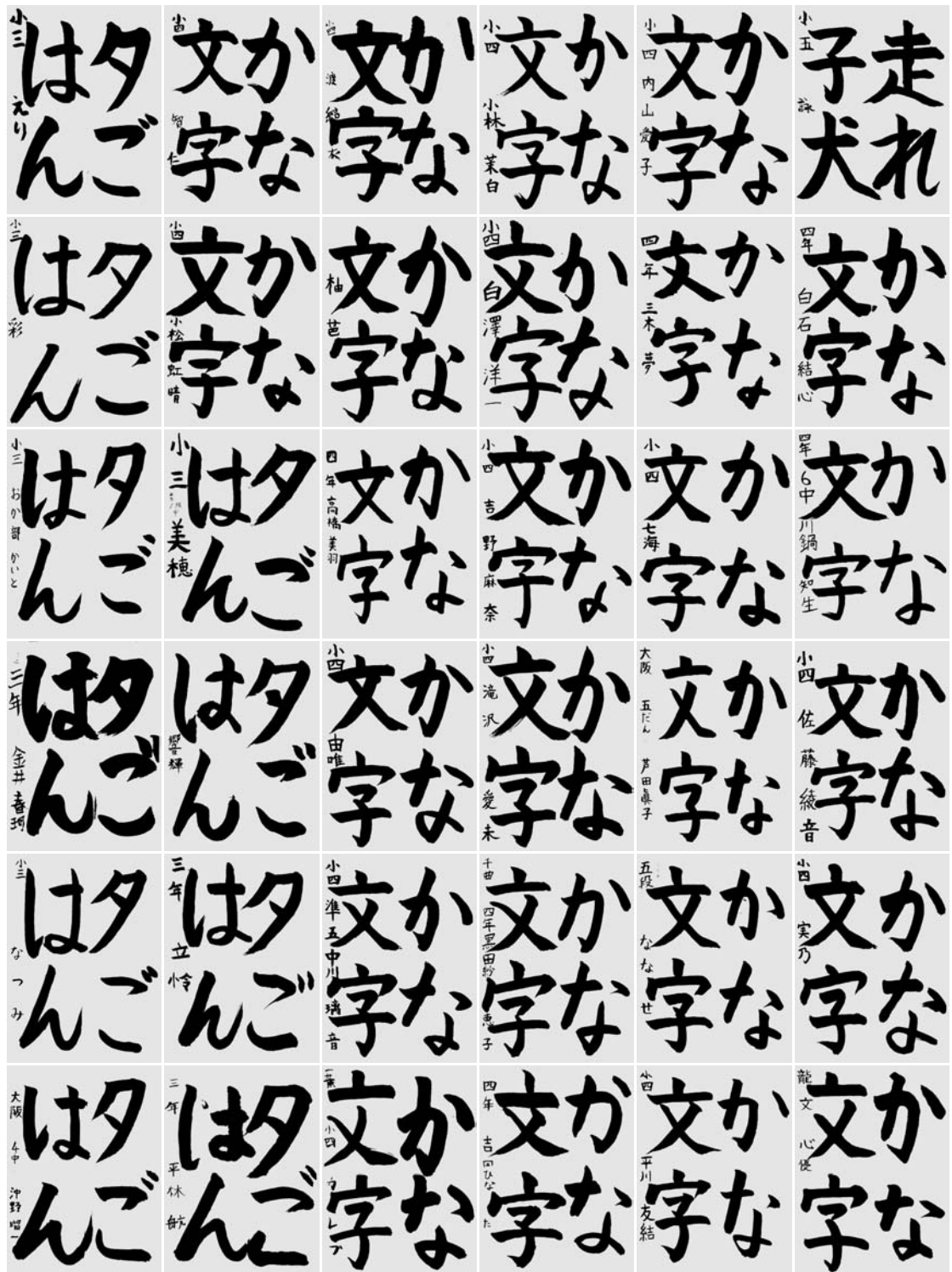
- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|-------|------|------|-------|------|------|------|--------|------|------|-------|-------|----|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-------|------|------|------|-------|--------|------|------|------|----|----|----|
| 華雪 | 産吉 | 秀雪 | 若宮 | 高風 | 八潮 | 柏心 | 柏華 | 竹華 | 杉 | 八潮 | 嵐山 | 風山 | 八潮 | 静 | 名東 | 杜 | 備後 | 成城 | 練馬 | 高社 | 若松 | 大田 | 船橋 | 竹華 | 柏芳 | 乙訓 | 四谷 | 小平 | 霞墨 | 竹友 | 八南 | 倭 | 静 | 八南 | 西村 | 宏美 |
| 鈴木友美子 | 鈴木美佐子 | 肥田来未 | 須田幸子 | 岩井保乃歌 | 北原典里 | 齐藤实里 | 平井尚之 | ポツダリ理香 | 仁平賀子 | 長南玉袖 | 増井久仁子 | 增井久仁子 | 賀子 | 山田佐和子 | 須永千智 | 柳武由美 | 中村和子 | 宮本真優 | 上野ほか | 川島郁子 | 山田里佳 | 工藤千夏 | 湯澤洋子 | 平井尚之 | 堀口奈津子 | 福田訓子 | 高杉景汀 | 岸野澄華 | 小林由美子 | 佐々木千鶴子 | 武居典子 | 落合江水 | 西村宏美 | 宏美 | | |

小六 関口晴音 存 思 分 う	小六 愛音 存 思 分 う	読書 山本菜凍菜 楽しい 読書	中二 美立音 町 の音 楽 会	中二 山田愛 町 の音 楽 会	又喜 中三 石井蓮花 町 の音 楽 会
六年 白井絢愛 存 思 分 う	特二 神澤安那 存 思 分 う	読書 鈴木一豊 楽しい 読書	中三 友梨 町 の音 楽 会	中三 中三 轟雪乃 町 の音 楽 会	李光 中二 中二 七段 らな 町 の音 楽 会
六年 梅津波月 存 思 分 う	小六 榎里 存 思 分 う	読書 中一 保戸塚 大 楽しい 読書	中三 特二 若村芽依 町 の音 楽 会	船橋 中二 中二 二段 内山瑠菜 町 の音 楽 会	中二 奈菜 町 の音 楽 会
小六 鳥村優心 存 思 分 う	李光 少年 準七 さくら 存 思 分 う	読書 彩音 楽しい 読書	中二 瑛士 町 の音 楽 会	中二 塚田紅愛 町 の音 楽 会	中二 つぐみ 町 の音 楽 会
小六 木村莉子 存 思 分 う	小六 三上 中山 柚花 存 思 分 う	小六 山本 優衣 存 思 分 う	中二 柳澤笑菜 読書 楽しい 読書	中二 青柳 ゆずゆ 町 の音 楽 会	中三 咲良 町 の音 楽 会
小六 会田深姫 存 思 分 う	小六 八木 羽音 存 思 分 う	小六 藤木 奏 存 思 分 う	中一 苺 読書 楽しい 読書	美那 中三 準七 歩真 町 の音 楽 会	中三 年 町 の音 楽 会

〔毛筆〕
 〔中二・三〕
 久喜 石井 蓮花
 李光 山口 なる
 凜心 松尾 奈菜
 中野 國津 つぐみ
 仙台 高橋 咲良
 山墨 長谷川 舞
 飯山 轟 雪乃
 船橋 内山 瑠菜
 青雲 塚田 紅愛
 水代 青柳 ゆずゆ
 美那 八代 歩真
 華雪 笹嶋 美音
 正桂 佐々木 友梨
 皓花 岩村 芽依
 宝仙 田部 井瑛士
 〔中一〕
 竹華 柳澤 笑菜
 峰 小柴 苺
 サン 山本 菜凍
 一絵 鈴木 一豊
 硯扇 保戸塚 幹大
 硯雪 江良 彩音
 華雪 江良 彩音
 〔小六〕
 有虹 山本 優衣
 房風 藤木 奏
 唯心 河崎 愛音
 石峰 神澤 安那
 みな 内田 樹里
 李光 中川 さくら
 名東 中山 柚花
 高風 八十嶋 羽音
 葉月 関口 晴音
 好野 白井 あやめ
 静翠 梅津 誠月
 大泉 木村 優心
 竹華 会田 深姫



玄黙	みな	名東	紅竹	芙五	北府	シノ	練馬	霞墨	皓花	有象	大阪	中野	光丘	この	珠紅	高社	平成	茅野	城彩	倭	山愛	聖	勝木	【小五】	玄嶽	杉月	湊	練馬	霞墨	溪月	虹苑	若竹	華雪	倭	玄樸	秀雪
染谷	糠信	柴内	富岡	深津	篠崎	山岸	美濃部	矢口	酒井	堀米	山本	外山	村社	高橋	前田	増田	早川	小林	山中	大槻	中垣	峯村	友重	塚越	増内	田口	大熊	吉江	高橋	山浦	長友	土肥	秋田	辻		
結奈	優太	咲良	遙香	結愛	佑羽	怡華	樹	朱莉	彩依	おん	正	敦博	月音	菜緒	陽香	健吾	実日子	陸哉	愛名	志穂	梨緒	友萌	琴瑛	れん	舞紗	あおい	直央	祥太	結愛	陽斗	輝帆	彩花				



大阪	秀雪	書之	若宮	花蓮	光丘	この	宮地	雅雪	華雪	【小三】	高社	綾華	一葉	名東	月東	大田	松戸	星	硯	千曲	須坂	練馬	中央	霞墨	若竹	英二	大阪	若松	柏心	秀雪	龍文	光丘	有穂	小光	平成	【小四】	若松
沖野	杉田	金井	岡部	眞家	藤原	平林	石地	佐々木	石坂	美穂	小松	富井	浅井	中川	貝藤	高橋	西谷	渡	吉田	黒田	滝澤	吉野	白澤	小林	平川	堀内	芦田	原口	内山	岡野	河森	佐藤	川鍋	白石	岩崎	詠	
瑠一	夏美	春珂	いと	彩	英里	航	立伶	響輝	美穂	虹晴	智仁	カレブ	璃音	由唯	美羽	結衣	芭	ひなた	紗恵子	愛未	麻奈	洋一	友結	七海	眞子	七海	夢	愛子	心優	乃	綾音	知生	結心	詠			

現代の書ハ三ノ三ノ多ク、多利互
変観と存ハ、書ノ傳統と熟視して、
二ノ二ノ其ノ東傳から脱出しようとする。
五段 中四葉

漱石枕流とは間違いを認め
ずに言い逃れをするような態
度のことを言う。兼心中一 結音

秋が深まるとモミジやイチ
ヨウの葉が、赤や黄色に亦
化していきます。有喜好三 五ノ二
南澤 葵音

秋が深まるとモミジやイチ
ヨウの葉が、赤や黄色に亦
化していきます。土筆 五ノ二
栗原 心

お友だちときれいにす
んだ川の流れにそって
歩きました。小林 三特
三ノ二

お友だちときれいにす
んだ川の流れにそって
歩きました。山本 三特
三ノ二

父と広はで、マ
ソンのれんしゅ
をします。名取 三特
三ノ二

現代の書ハ三ノ三ノ多ク、多利互
変観と存ハ、書ノ傳統と熟視して、
二ノ二ノ其ノ東傳から脱出しようとする。
四段 妙光

漱石枕流とは間違いを認め
ずに言い逃れをするような態
度のことを言う。聖中三特
木藤 南海

秋が深まるとモミジやイチ
ヨウの葉が、赤や黄色に亦
化していきます。土筆 六ノ二
松澤 里実

秋が深まるとモミジやイチ
ヨウの葉が、赤や黄色に亦
化していきます。行方 六ノ二
鈴島 葵

お友だちときれいにす
んだ川の流れにそって
歩きました。土筆 三特
西口 乃花

お友だちときれいにす
んだ川の流れにそって
歩きました。中野 三特
東本 心

父と広はで、マ
ソンのれんしゅ
をします。はた 三特
三ノ二

ひとり徒歩いて旅したときほどゆたかに
考え、ゆたかに存在し、ゆたかに生き
られた私自身であったことはない。
七段 妙光

漱石枕流とは間違いを認め
ずに言い逃れをするような態
度のことを言う。新中三特
藤野 千夏

秋が深まるとモミジやイチ
ヨウの葉が、赤や黄色に亦
化していきます。美奈 六ノ二
竹林 春南

お友だちときれいにす
んだ川の流れにそって
歩きました。茅原 優月

お友だちときれいにす
んだ川の流れにそって
歩きました。千谷 四葉
谷川 愛美

父と広はで、マ
ソンのれんしゅ
をします。はら 三特
原島 朱璃

父と広はで、マ
ソンのれんしゅ
をします。杉田 結愛

漱石枕流とは、間違いを認め
ずに言い逃れをするような態
度のことを言う。湊中二七
務台 峻也

秋が深まるとモミジやイチ
ヨウの葉が、赤や黄色に亦
化していきます。日下部 九優

秋が深まるとモミジやイチ
ヨウの葉が、赤や黄色に亦
化していきます。昭澤 六ノ二
青木 未空

お友だちときれいにす
んだ川の流れにそって
歩きました。有穂 三特
村上 永麻

〔硬筆〕

- 【一般】 照澤 青木 未空
土筆 栗原 心
たけ 鈴島 葵
- 【中学】 石峯 大島 紗光
阪田 谷子
湊 務台 峻也
聖 秋山 結音
凛心 木藤 南海
新城 橋野 千夏
- 【小五・六】 中野 東本 さえ
連田 原島 朱璃
名東 原島 朱璃
杉 畑 ひより
- 【小一・二】 山愛 ソフイ
- 【小一・二】 杉 瀧田 結愛
- 【小一・二】 美菜 有虹 南保 松澤 春南
- 【小一・二】 竹林 里実
- 【小一・二】 美菜 有虹 南保 松澤 春南
- 【小一・二】 竹林 里実

Table with columns for names and locations (e.g., 京都, 愛媛, 福岡). Rows list individuals such as 禮園, 子園, 虹友, 響山, 湊秀, etc., with their associated names and locations.

Table with multiple columns listing names and categories. Includes names like 飯山, 星, 北府, etc. and categories like 瀬戸, 豊花, etc. The table is organized into sections with varying column widths and some text in larger fonts.

□は写真版(昇級しない) ○は昇級(1階級昇級する) ☆は秀作(同段位で二回とると昇段する。ただし師範部は除く。)

秀雪	文化	瀬戸	須坂	志摩	皓湖	新田	綾華	名東	玄耀	星耀	信大	四谷	杉平	麗橋	雅墨	横二	静翠	水代	美代	笠原	龍文	土筆	大家	美菜	玄珠	若松	勝木	竹華	杉理	高小	長風	富貴	八戸	硯池	
井上	越谷	磯村	富澤	山中	坂藤	完田	川鍋	敦子	坂本	下枝	根井	高杉	佐美	神谷	原口	宮澤	伊勢	柴田	歌田	渡辺	亞利	齋藤	美齋	大橋	恒吉	谷通	山崎	山崎	岸野	濱名	安大	工藤	木村		
長野	秀雪	華雪	華雪	華雪	華雪	華雪	華雪	華雪	華雪	華雪	華雪	華雪	華雪	華雪	華雪	華雪	華雪	華雪	華雪	華雪	華雪	華雪	華雪	華雪	華雪	華雪	華雪	華雪	華雪	華雪	華雪	華雪	華雪	華雪	
中西	鈴木	森清	齊藤	浦原	中本	真由	松本	神林	重松	豊泉	鎌津	金子	都長	夕田	圓藤	鹿島	奥原	古矢	歌田	鈴木	佐々	望月	山村	石井	市川	山田	多賀	森空	江野	手塚	清田	高橋	翠白		
足羽	有羽	小勢	小勢	小勢	小勢	小勢	小勢	小勢	小勢	小勢	小勢	小勢	小勢	小勢	小勢	小勢	小勢	小勢	小勢	小勢	小勢	小勢	小勢	小勢	小勢	小勢	小勢	小勢	小勢	小勢	小勢	小勢	小勢	小勢	
真希	近藤	山中	浦田	塚越	絵原	酒井	安藤	小川	牛山	鎌倉	鎌倉	鎌倉	鎌倉	鎌倉	鎌倉	鎌倉	鎌倉	鎌倉	鎌倉	鎌倉	鎌倉	鎌倉	鎌倉	鎌倉	鎌倉	鎌倉	鎌倉	鎌倉	鎌倉	鎌倉	鎌倉	鎌倉	鎌倉	鎌倉	
柏原	荻原	大村	坂明	鈴木	大嶋	當間	小浦	小林	牛山	鎌倉	鎌倉	鎌倉	鎌倉	鎌倉	鎌倉	鎌倉	鎌倉	鎌倉	鎌倉	鎌倉	鎌倉	鎌倉	鎌倉	鎌倉	鎌倉	鎌倉	鎌倉	鎌倉	鎌倉	鎌倉	鎌倉	鎌倉	鎌倉	鎌倉	
美二	竹華	八光	八光	八光	八光	八光	八光	八光	八光	八光	八光	八光	八光	八光	八光	八光	八光	八光	八光	八光	八光	八光	八光	八光	八光	八光	八光	八光	八光	八光	八光	八光	八光	八光	
谷脇	染谷	宮嶋	峯野	今國	落合	古賀	北川	中野	古賀	北川	中野	古賀	北川	中野	古賀	北川	中野	古賀	北川	中野	古賀	北川	中野	古賀	北川	中野	古賀	北川	中野	古賀	北川	中野	古賀	北川	
希望	大淀	大淀	大淀	大淀	大淀	大淀	大淀	大淀	大淀	大淀	大淀	大淀	大淀	大淀	大淀	大淀	大淀	大淀	大淀	大淀	大淀	大淀	大淀	大淀	大淀	大淀	大淀	大淀	大淀	大淀	大淀	大淀	大淀	大淀	大淀
入江	岩澤	正體	山下	木下	大和	佐藤	原田	小原	山本	佐藤	原田	小原	山本	佐藤	原田	小原	山本	佐藤	原田	小原	山本	佐藤	原田	小原	山本	佐藤	原田	小原	山本	佐藤	原田	小原	山本	佐藤	
宝春	飯山	星雪	中央	光丘	華雪	若松	大東	渡邊	玉山	上野	初田	多田	須田	石井	鈴木	柳澤	皆川	紺谷	大槻	鍋島	西野	浦田	中村	川口	川口	川口	川口	川口	川口	川口	川口	川口	川口	川口	
本城	恵美	安藤	島野	水野	水野	水野	水野	水野	水野	水野	水野	水野	水野	水野	水野	水野	水野	水野	水野	水野	水野	水野	水野	水野	水野	水野	水野	水野	水野	水野	水野	水野	水野	水野	水野
笠原	虹友	松代	富土	名東	みな	高風	有穂	有穂	有穂	有穂	有穂	有穂	有穂	有穂	有穂	有穂	有穂	有穂	有穂	有穂	有穂	有穂	有穂	有穂	有穂	有穂	有穂	有穂	有穂	有穂	有穂	有穂	有穂	有穂	有穂
宮原	岩戸	宮山	池川	山田	小泉	水城	宇田	水城	宇田	水城	宇田	水城	宇田	水城	宇田	水城	宇田	水城	宇田	水城	宇田	水城	宇田	水城	宇田	水城	宇田	水城	宇田	水城	宇田	水城	宇田	水城	宇田
皓花	若竹	中野	秀雪	葉月	笠原	山愛	山愛	山愛	山愛	山愛	山愛	山愛	山愛	山愛	山愛	山愛	山愛	山愛	山愛	山愛	山愛	山愛	山愛	山愛	山愛	山愛	山愛	山愛	山愛	山愛	山愛	山愛	山愛	山愛	山愛
大坪	小林	田川	井上	柴崎	西田	渡辺	西田	渡辺	西田	渡辺	西田	渡辺	西田	渡辺	西田	渡辺	西田	渡辺	西田	渡辺	西田	渡辺	西田	渡辺	西田	渡辺	西田	渡辺	西田	渡辺	西田	渡辺	西田	渡辺	西田
樺森	華雪	玄城	新曲	北府	笠原	笠原	笠原	笠原	笠原	笠原	笠原	笠原	笠原	笠原	笠原	笠原	笠原	笠原	笠原	笠原	笠原	笠原	笠原	笠原	笠原	笠原	笠原	笠原	笠原	笠原	笠原	笠原	笠原	笠原	笠原
降幡	小池	加畑	金井	石田	高野	石田	高野	石田	高野	石田	高野	石田	高野	石田	高野	石田	高野	石田	高野	石田	高野	石田	高野	石田	高野	石田	高野	石田	高野	石田	高野	石田	高野	石田	高野
静	秀雪	書之	笠原	華雪	華雪	華雪	華雪	華雪	華雪	華雪	華雪	華雪	華雪	華雪	華雪	華雪	華雪	華雪	華雪	華雪	華雪	華雪	華雪	華雪	華雪	華雪	華雪	華雪	華雪	華雪	華雪	華雪	華雪	華雪	華雪
静	篠田	翠井	百瀬	酒雅	めみ	雅染	友里	清水	高杉	照子	吉野	水野	岡田	富野	三植	飯田	中村	田中	田中	田中	田中	田中	田中	田中	田中	田中	田中	田中	田中	田中	田中	田中	田中	田中	田中
源創	俊正	桂玄	城勢	麗墨	大森	樺森	小平	游墨	高杉	照子	吉野	水野	岡田	富野	三植	飯田	中村	田中	田中	田中	田中	田中	田中	田中	田中	田中	田中	田中	田中	田中	田中	田中	田中	田中	田中
香文	花美	敦川	清田	桂田	高野	石田	高野	石田	高野	石田	高野	石田	高野	石田	高野	石田	高野	石田	高野	石田	高野	石田	高野	石田	高野	石田	高野	石田	高野	石田	高野	石田	高野	石田	高野
俊	富貴	珠悠	勝月	龍文	大坂	一路	一路	一路	一路	一路	一路	一路	一路	一路	一路	一路	一路	一路	一路	一路	一路	一路	一路	一路	一路	一路	一路	一路	一路	一路	一路	一路	一路	一路	一路
豪	小泉	手真	知真	小倉	廣中	長一	長一	長一	長一	長一	長一	長一	長一	長一	長一	長一	長一	長一	長一	長一	長一	長一	長一	長一	長一	長一	長一	長一	長一	長一	長一	長一	長一	長一	長一

□は写真版(昇級しない) ○は昇級(1階級昇級する) ☆は秀作(同段位で二回とると昇段する。ただし師範部は除く。)

Table with 10 columns and 100 rows of Japanese text, likely a list of names and titles. The text is organized into columns and rows, with some cells containing specific characters like squares (□) and circles (○) indicating status or classification.

□は写真版(昇級しない) ○は昇級(1階級昇級する) ☆は秀作(同段位で二回とると昇段する。ただし師範部は除く。)

Table with multiple columns and rows listing names and numbers. Includes sub-sections like '久喜支部', '蔵支部', '玄嶽支部', '硯扇支部', '源創支部', '玄嶽支部', '虹苑支部', '高社支部', '高風支部', '山愛支部', '志摩支部', '秀雪支部', and 'その他'.

支部別の発表です。個人出品は「その他」として巻末にあります。

Table with columns for names (e.g., 坂本可, 佐藤和, 北島律), birth dates (e.g., 5中, 4上), and various performance categories (e.g., 準初, 初, 特). Includes sub-sections like 珠紅支部, 小光支部, etc.

□は写真版(昇級しない) ○は昇級(1階級昇級する) ☆は秀作(同段位で二回とると昇段する。ただし師範部は除く。)

Table with 10 columns and 100 rows of names and numbers. Includes various branch names like 茅野支部, 中央支部, etc.

支部別の発表です。個人出品は「その他」として巻末にあります。

Table with 10 columns and 100+ rows of names and numbers. Includes sub-sections like '芙蓉第二支部', '芙蓉第五支部', '房風会支部', '三池支部', '水代支部', '美苑支部', 'み月支部', '美菜支部', '美那支部', '湊支部', '宮地支部', '名東支部', '御代田支部', '杜の会支部', '八潮支部', '倭支部', '有家支部'.

□は写真版(昇級しない) ○は昇級(1階級昇級する) ☆は秀作(同段位で二回とると昇段する。ただし師範部は除く。)

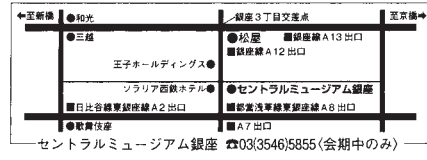
Table with 10 columns and 20 rows of names and grades. Includes sub-sections like '有象虹支部', '有徳支部', '毛筆支部', '凜心支部', '和支部', '若竹支部', '若松支部', '若葉支部', '若宮支部', 'その他'. Each cell contains a name and a grade (e.g., 特2, 準2, 準3, 準4, 準5, 準6, 準7, 準8, 準9, 準10, 準11, 準12, 準13, 準14, 準15, 準16, 準17, 準18, 準19, 準20, 準21, 準22, 準23, 準24, 準25, 準26, 準27, 準28, 準29, 準30, 準31, 準32, 準33, 準34, 準35, 準36, 準37, 準38, 準39, 準40, 準41, 準42, 準43, 準44, 準45, 準46, 準47, 準48, 準49, 準50, 準51, 準52, 準53, 準54, 準55, 準56, 準57, 準58, 準59, 準60, 準61, 準62, 準63, 準64, 準65, 準66, 準67, 準68, 準69, 準70, 準71, 準72, 準73, 準74, 準75, 準76, 準77, 準78, 準79, 準80, 準81, 準82, 準83, 準84, 準85, 準86, 準87, 準88, 準89, 準90, 準91, 準92, 準93, 準94, 準95, 準96, 準97, 準98, 準99, 準100).

注意 1. バーコード出品券と作品の段級位の不一致にご注意下さい。
2. バーコード出品券には必ず〇印と段級位等を、作品には段級位、名前を書いて下さい。
3. バーコード出品券の種別（臨規や仮規等）の〇印の誤りに、ご注意下さい。
※上記の誤りがあった場合、正しい登録名列の各段級位の最後列にお名前が入っています。

第61回有山社(東京謙慎)書展

謙慎書道会では、東京・埼玉・千葉在住の常任理事による新春恒例の書道展を開催します。是非ご覧下さい。

◇会期 令和2年1月14日(火)～19日(日)
 ◇会場 セントラルミュージアム銀座
 東京都中央区銀座3-9-11
 紙パルプ会館5階



出品者 賛助出品 田中節山先生
 市澤静山 荻田光山 恩田静月 久保妍山 小淵石峯 小室墨汀
 杉山曉雲 杉山窓影 関 香風 竹内青紗 竹内藍山 露崎玄峯
 内藤望山 中内真意 西野江月 樋口玄山 藤森大節 宮本耕成
 柳澤玄嶽 山口啓山 渡辺華雪(書象会関係)

書象会便り

◆第82回謙慎書道会展の申込をお忘れなく
 郵便振替による標記申込の締切日が十二月十三日(金)でした。申込をされていない方は、大至急書象会本部までご連絡ください。

☆添削会などの日程は次の通りです。

添削会 十二月二十二日(日) 武蔵野公会堂(吉祥寺)
 (午前10時より)
 添削会 一月十三日(祝)武蔵野スイングホール(武蔵境)
 (午前10時より)

最終選考会 二月二日(日) 武蔵野スイングホール(武蔵境)
 (午前10時より)

☆謙慎書道会展会期中のイベント(東京都美術館)
 △席上揮毫▽ 三月十八日(水) 十一時～ 杉山曉雲先生
 △ギャラリートーク▽ 三月十九日(木) 十四時～ 山口啓山先生

◆秋季昇段級試験終了

令和元年秋季師範、準師範、特待生の各試験の審査、一般・学生の昇段級試験の審査が十二月一日(日)に終了いたしました。支部長先生をはじめ、受付並びに返送作業に当たられた事務局員、お手伝いの皆様には感謝申し上げます。

△書展報告▽

- ☆第29回謙慎書道会西部展
 会期 十二月六日(金)～八日(日)
 会場 四国大学交流プラザ
 - ☆第24回謙慎書道会甲信北越展
 会期 十二月十一日(水)～十七日(火)
 会場 山梨県立美術館
 - ☆第22回謙慎書道会九州沖縄展
 会期 十二月十八日(水)～二十二日(日)
 会場 佐賀県立美術館 2号・3号展示室
 - ☆第60回熊日書道展
 会期 十二月十日(火)～十五日(日)
 会場 熊本県立美術館本館
- 出品者 委嘱 吉澤蒼雲 中川汀松
 委嘱認定 小柳貞松
 入選 緒方愛節 鹿谷光琴 虎本溪風(本会関係)

第36回 成田山全国競書大会

青少年に心の安らぎを与え、豊かな情操を養うことを願ひ



作品募集期間/令和2年1月25日～31日

主催:成田山全国競書大会実行委員会
 後援:中国書法家協会/中国大使館/読売新聞社

お問合せ 成田山全国競書大会実行委員会事務総局

TEL 0476-24-2017(直通) FAX 0476-24-2084

ホームページ <http://www.naritasan-kyosho.jp>

《書象会総会・新年会のお知らせ》

左記の通り開催いたします。
 多数ご参加下さいますよう御案内申し上げます。
 日時 令和二年一月二十六日(日)正午～十四時三十分
 会場 京王プラザホテル5階
 「コンコードボールルーム」
 会費 一五、〇〇〇円
 ※尚、新年会に先だち十一時より47階「あけぼの」にて授号式が行われます。

氏名

発行人 (有) 書象
 代表 上 節 夫
 東京都武蔵野市吉祥寺北町四一三六
 郵便番号180-0001 電話〇四三(五三)九七四三
 振替口座 〇〇一九〇一七二二五六九一
 振替名義 (有) 書象
 印刷所 株式会社 リンクス